

令和5年度 市長と中学生のふれあいトーク【山南中学校】 令和5年12月21日（木）開催

発表グループ①

□「丹波市の自然を生かした施設の設置について」

丹波市は面積が約49,320ヘクタールで、県内5位の広大な土地であり、そのうち約37,000ヘクタールが林野面積という広大な自然に囲まれたまちです。こうした環境を活用し、自然の中で身体を動かして遊ぶことのできる施設を作って欲しいです。

令和6年には伊勢志摩に、自然の中で体を動かして遊ぶことをテーマにしたアウトドア体験型複合施設がオープンします。丹波市も同様に豊かな自然を最大限に生かした観光資源をつくることで、地域の活性化や人口増加のきっかけになります。また、施設を通して人がたくさん集まることから「つながり」をつくるきっかけになると思います。

施設を作るにあたっては3つのポイントがあります。1つ目は、経営について支援が必要であるということです。希望者を募って経営を進めていく中で、市民の高齢化が進むと、施設の維持管理は難しいと思います。2つ目は、この施設は観光客を集めることよりも市民のつながりをつくる場になって欲しいと思っています。市民割引など、市民が利用しやすいサービスを十分に行って欲しいです。3つ目は設置場所についてです。公共施設などが充実していても、観光資源などが乏しい地域などを中心に考えて欲しいと思います。

■市長コメント

丹波市の豊かな自然を活用した施設を作って欲しいという提案をいただきました。皆さんは丹波少年自然の家に行ったことがあるでしょうか。この施設は、丹波市が4月から引き継ぎ、民間の力を活用しながら新たに宿泊や遊ぶことのできる、まさに皆さんが提案してくれたような施設にしたいと思っています。

発表グループ②

□「市外を走る地域ならではのデザインに装飾したバスや電車について」

現在、JR篠山口駅から福知山駅までは1時間に1本程度しかないのが現状です。市内を走る路線バスも同様で、本数が少なく利用したい時間が合わないことがあります。市内にはちーたんがデザインされた路線バスが走っていますが、市外に向けてはあまり効果がないと思いました。

そこで、提案するのは大阪などの都市まで運行するJR福知山線の車両に丹波竜やちーたんのデザインにすることです。調べたところ、かつて恐竜列車「ちーたん号」という車両を走らせていたことがあり、当時は丹波市への観光客が増えたという結果が出ていたそうです。

地域に関わるものがデザインされた列車などが走り、たくさんの人の目にとまるのは私たちにとっても誇りになります。また、デザインされた電車やバスに「乗りたい」「写真を撮りたい」などといった若者が多く集まり、SNSなどで注目を浴びることができます。こうして観光客が増えることで市内の経済が活性化することも期待できます。

以上の流れから、市内の公共交通機関の利用者数増加に伴う増便が行われると、運行本数が少ないという課題を解決できます。

ただし、実現には費用や時間などのコストが必要になること、利用者が増えたとき、通勤通学で日常的に利用する人が乗車できないようにならないためにする必要があること、利用者をうまく集めることができず、空バス、空電車が出るなど利益が出ない場合どうするかということを考えなければなりません。

■市長コメント

数年前に JR 福知山線の車両に明智光秀や赤井（荻野）直正をデザインした電車を走らせたことがあります。当時は私も甲冑を着て、柏原駅でお客さんを出迎えたこともありましたが、観光客増加とまではなりません。ちーたんがデザインされたバスについては、予算の都合上たくさん増やすことは難しいですが、市外を走るバスにラッピングして PR するのは面白いと感じました。

ちなみに皆さんは、どんなバスだったら乗りたいと思いますか。

□生徒①コメント

ちーたんバスは車内にもちーたんのデザインが装飾されていますが、もっと面白味が欲しいです。

□生徒②コメント

車内の座席をもっとフワフワにするとか、特徴を作った方がいいと思います。

■市長コメント

面白い提案をありがとうございます。丹波市では公共交通機関に乗る人が平成 20 年から減少してきていましたが、現在は当時の数字まで V 字回復しました。公共交通の便数を増やすためには、たくさんの人に利用してもらう必要があります。丹波市役所では毎月 22 日をノーマイカーデーとし、公共交通機関を利用して出勤しようという日にしており、私も実践しています。

皆さんの移動手段が十分に確保できるような、きめ細かい公共交通にしたいと考えていますので、ぜひ皆さんにも乗車して欲しいと思います。

□生徒③コメント

市長の話を聞いて、公共交通機関の利用者を増やすことの大変さを改めて感じました。私たち若者が SNS で呼びかけることも大切だと思いました。

■市長コメント

ぜひ、家族にも「バスがこんなに便利だよ」と呼び掛けて欲しいです。

発表グループ③

□「空き家を利用したこども食堂について」

市内では空き家が増えています。地域で子どもを育てる「こども食堂」に空き家を利用することで、子どもの貧困と向き合うことや維持管理の課題が解決できると思います。

空き家を活用したこども食堂をするにあたっては①経営者を募集する必要があること②空き家の所有権が得られるか③こども食堂にかかるコスト問題の3つの課題があります。コストについては市民から資金を集めるのは難しいので、クラウドファンディングの活用が考えられます。

しかし、こども食堂を運営することで、子どもの世話や食堂の手伝いとして、地域の人たちや高齢の人たちがたくさん集まり、地域内のコミュニティーの場としてつながりの場を作るなど良い効果も期待できます。また、経営や手伝いに高齢者がかかわることで、老後の人生の生きがいになり、そこに来る同世代の高齢者の人たちともつながることができ、健康寿命を延ばすことにもつながると思えました。

■市長コメント

空き家の所有権やこども食堂のコストについてまで考えられた素晴らしい提案をありがとうございます。先日、沼貫のこども食堂に行きましたが、公民館で行われていました。維持管理の都合上、公民館と違って空き家でこども食堂をすることは難しいですが、クラウドファンディングなど、考えてくれた視点は素晴らしいと感じました。

発表グループ④

□「丹波市の観光 PR としてのキッチンカーの利用と、SNS の発信について」

丹波市の PR について考えていく中で「丹波市内の観光客を増やさなければならない」「丹波篠山市と差別化しなければならない」という課題があります。そこで、まずは丹波市を知ってもらう方法を考えるべきだと思えました。

市長に提案するのは、道の駅など人がたくさん集まる場所に市の特産物を販売するキッチンカーを配置し、SNS などを使ってイベントの PR を行い、丹波市を知ってもらう企画をして欲しいです。このような取組は茨城県八千代町で行われるなど実績があります。

企画を実施するにあたっては①SNS を活用しない世代への PR について②キッチンカーの出店場所について③PR 方法をブラッシュアップする必要があるといった3つの課題があります。

しかし、①SNS を活用することで、若者を中心とした多くの人に丹波市を知って貰える②SNS を見て、丹波市に遊びに来る人が増えることで観光客の増加が期待できる。併せてキッチンカーなどで、地域の特産物の魅力を知ってもらうことができる③イベントに来た人が動画や写真などを投稿、拡散することで、さらに丹波市を知る人が多くなり、結果として観光業を中心とした産業の活性化などが期待できます。

■市長コメント

毎日ではありませんが、駅前や道の駅などでキッチンカーを集めたイベントを実施し、SNS などでも PR をしています。企画内容や SNS の発信方法をどのようにすると良いか皆さんも一緒に考え、ご意見をいただきたいです。

□生徒①コメント

丹波市で進めているイベントなどを企画の段階から取材し、それを発信することで、丹波市やイベントについての理解が深まって集客できると思います。

■市長コメント

丹波市も動画を作って YouTube に投稿していますが、視聴者数が伸び悩んでいます。私も毎日、黒井城跡登山をし、雲海の写真などを SNS でアップしていますが、産業活性化までは繋がっていません。ただ SNS を発信するだけでなく、先ほど提案して貰ったことを参考にしながら工夫していきたいと思います。